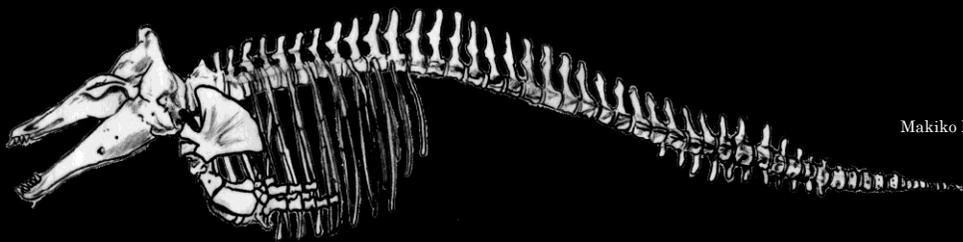


# 自然遊学館だより



Makiko Nishizawa

マゴンドウ *Globicephala macrorhynchus*

## ◆2004 (No. 32)

---

### ◆行事レポート◆

- 「近木っ子探検隊・春のハイキング」……1
- 「トンボの池の生きもの調べ」……2
- 「大阪みなと探検クルーズ」……3
- 「なぎさの生きもの」……3
- 「第5プールのヤゴ調べ」……4
- 「ヒラメの稚魚放流」……5

### 【泉州生きもの歳時記】

- ナガサキアゲハ……6
- アカネズミ……6

### ◆投稿◆

- わたしのカブトムシ日記  
(日向 向日葵) ……7

### ◆寄贈標本紹介◆

- 高野晴一郎君が採集したキマダラカメムシ  
……………9

### ◆寄贈図書の紹介◆

- 自然科学雑誌 ほか約 100 点  
(近鉄あやめ池遊園地 河合正人氏より)
- 植物雑誌 約 50 点(清水千尋氏より)……10

### ◆Information◆

- 遊学館スタッフの日誌より……10
- 新パンフレット完成……10
- 夏期特別展「二色浜の生きものたち」……11
- 山手地区公民館で「昆虫の食性展」……11
- 編集後記……11

## ◆行事レポート◆

### 近木っ子探検隊・春のハイキング

日時：2004年4月24日（日）10:00～13:00

場所：蕎原バス停～ほの字の里

前日の下見は、とても蒸し暑く、おまけに道を間違えて、倒木やイチゴの刺に阻まれ、とてもきつい沢登りでした。うってかわって、ひんやりとすずしい風が吹く心地よい本番、幼児も含む39名が、蕎原の田んぼや畑、かなり急な山道も助け合って上り下りしました。元気な子どもたちの被害動物 No.1 は、ニホンアマガエルです。

蕎原の田や畑は春の花がいっぱい。スマレやウマノアシガタや、カキドオシなど。山道にさしかかると、キジノオシダとムロウマムシグサがあちこちに見られました。ムロウマムシグサは、サトイモ科で茎のまだら模様と、茎の先につく変わった形の仏炎包(ぶつえんほう)が特徴です。木立の下でヌッと立っています。

#### 観察した植物

タネツケバナ、ミチタネツケバナ、スイバ、ナンバンカラムシ、セイヨウタンポポ、スズメノヤリ、カラスノエンドウ、セリ、オオイヌノフグリ、オニタビラコ、コハコベ、エゾノギシギシ、オオジシバリ、イヌガラシ、キュウリグサ、レンゲ、ノキシノブ、タチツボスマレ、キケマン、ユキノシタ、カキドオシ、キランソウ、オヤブジラミ、ホタルブクロ、イチゴツナギ、スイカズラ、ヤブニンジン、アカネ、ヌカボシソウ、コアカソ、セトガヤ、コオニタビラコ、コモチマンネングサ、ヒメオドリコソウ、ノアザミ、ジロボウエンゴサク、ミミナグサ、オランダ

ミミナグサ、ヘビイチゴ、ウシハコベ、キンポウゲ、ウマノアシガタ、カラムシ、トウバナ、クサイチゴ、シャガ、スズメノヤリ、シラスゲ、ギシギシ、イノモトソウ、ヤマネコノメソウ、シシウド、ムロウマムシグサ、キジノオシダ、ヘランダ、ショウジョウバカマ、トウゲシダ、マツカゼソウ、ホウノキ、アオダモ、ニガイチゴ、ヤマウルシ、カスミザクラ

#### 観察した動物

鳥類：セグロセキレイ、ウグイス、ツバメ、アオサギ、カワラヒワ、スズメ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヤブサメ

両生類：ニホンアマガエル、ツチガエル

昆虫類（★：林道のみ）

ニシカワトンボ、ハラヒシバツタ、ヒメギス幼虫、マダラバツタ幼虫、ホソハリカメムシ、ブチヒゲヘリカメムシ、ホシハラビロヘリカメムシ、ケブカキベリナガカスミカメ★、ホソヒメヒラタアブ(注)、キリウジガガンボ、ビロウドツリアブ★、リンゴコフキゾウムシ、ナナホシテントウ、サカハチチョウ★、ヒメウラナミジャノメ、ベニシジミ、ツバメシジミ、オスグロハバチ、クロヤマアリ、セイヨウミツバチ



ホオの木の葉の帽子だよ！

## トンボの池の生きもの調べ

日時：2004年5月8日 13:00～15:00

場所：自然生態園トンボの池

1997年11月に完成した自然生態園トンボの池では、これまでに15種のヤゴが確認されています。一昨年からは4月か5月に2名がトンボの池に15分間入って採集を行い定量的なデータをとっています(同定後、元に戻しています)。今年はその3回目にあたり、鈴子勝也君と一緒に採集を行いました。

たも網ですくったアオミドロの中からヤゴや他の生きものをえり分ける作業を、行事に参加された方々に手伝っていただきました。今回採集したトンボは8種で新たに確認された種はありませんでした。ただ、今回初めて、コマルケシゲンゴロウが確認されました。



ヤゴ選別作業  
(鈴子佐幸さん撮影)

以下の表には、当日採集された水生昆虫および水生動物のリストを示しました。

### 自然生態園トンボの池 生きものリスト (2004年5月8日)

天候：晴れ  
採集者：2名(鈴子勝也・岩崎拓)  
採集時間：15分  
同定者：向井康夫・岩崎拓

● トンボ目幼虫		
科	種	個体数
アオイトトンボ科	アオイトトンボ	474
ヤンマ科	クロスジギンヤンマ	1
	ギンヤンマ	1
トンボ科	マルタンヤンマ	1
	シオカラトンボ	2
	ノシメトンボ	83
	コノシメトンボ	28
	タイリクアカネ	2
	アカネ属(若齢)	46
合計		638

● その他の昆虫		
		個体数
カメムシ目	マルミズムシ(成虫)	5
	コミスムシ(成虫)	4
	ヒメアメンボ(成虫)	1
	マツモムシ科(幼虫)	2
コウチュウ目	ヒメガムシ(成虫)	2
	キイロヒラタガムシ(成虫)	3
	コマルケシゲンゴロウ(成虫)	2
ハエ目	ユスリカ科(幼虫)	多数

● その他の動物		
		個体数
甲殻類	アメリカザリガニ	4
貝類	モノアラガイ	1

● トンボ目成虫(飛翔)		
		個体数
ヤンマ科	クロスジギンヤンマ	-
トンボ科	シオカラトンボ	-
	シウジョウトンボ	-

(岩崎 拓)

## 大阪みなと探検クルーズ

日時：2004年4月11日・25日

場所：貝塚港～大阪港南港～神戸メリケンパーク

さる3月20日（土）ホテルサンルート関西で行われた「大阪湾自然再生シンポジウム」に、近木っ子探検隊は「近木川の宝物みつけた」という劇に出演、そのご縁で主催者の国土交通省近畿地方整備局が、「大阪みなと探検クルーズ」に招待してくださった。

小さい愛嬌のある船「鉄丸」が、なんと貝塚港まで迎えにきてくれ、両日ともよく晴れて波もない絶好の船旅でした。大阪港の南港に上陸し、お弁当を食べた後、屋上に上がって周囲を展望、大阪港夢洲トンネルの沈埋トンネル工法などを藤田課長から説明していただいた。次の上陸地は、神戸メリケン波止場、異次元からのお客様気分記念撮影。海上を飛ぶように走る鉄丸の横では、サバがはね、かもめが浮かび、U S J の裏側が見えたり、いつもは車で通る橋を下から見上げたり、初体験がいっぱいのクルージングでした。

（白木 江都子）

## なぎさの生きもの

日時：2004年5月22日（土）

場所：二色浜南端、近木川河口

昔より白砂青松で知られた二色の浜はこの時期、潮干狩りでたくさんの人手で賑わいます。陸と海とのはざまである“なぎさ”は、潮の満ち引きによって干出・冠水を繰り返す場所であり、多くの生物を育てています。

このフィールドを舞台に、午前中は見出川

河口に隣接する二色浜南端で、午後からは近木川河口に移動し、総勢55名にて観察会を行いました。講師に児嶋格さん、鍋島靖信さんに来て頂き、参加した子供たちは足を濡らし夢中で生物を捕まえては、次々に質問を投げかけていました。

採集方法に今回は、皿池スタッフによる投網を加えたことで、メジナやスズキなどの幼魚を中心に魚類がたくさん採れました。また、お弁当を食べた浜には、咲き誇るハマヒルガオなどの海浜植物もみられました。



二色浜での生物観察会

## 確認された生物

〔海藻〕アオサ、ミル、オゴノリ、タオヤギソウ、ツルツル

〔刺胞動物〕タテジマイソギンチャク、ミズクラゲ、アカクラゲ

〔軟体動物〕ヒメケハダヒザラガイ、マガキ、アサリ、ホトトギスガイ、ムラサキイガイ、バカガイ、カモガイ、カラマツガイ、タマキビ、アラレタマキビ、マルウズラタマキビ、イシダタミガイ、コシダカガンガラ、イボニシ、アラムシロガイ

〔環形動物〕カンザシゴカイ科の一種、ウズマキゴカイ、スゴカイ、ミズヒキゴカイ、イソミミズ

〔節足動物〕 イソガニ、ケフサイソガニ、ヒライソガニ、モクズガニ、オサガニ、ヨコヤアナジャコ、ユビナガホンヤドカリ、ケアシホンヤドカリ、スジエビモドキ、アメリカザリガニ、フサゲモクズ、イソコツブムシ属の一種

〔棘皮動物〕 イトマキヒトデ、ヒモイカリナマコ

〔脊索動物〕 イシガレイ、ヒメハゼ、ミミズハゼ、チチブ、トビヌメリ、マゴチ、マブナ、スズキ、メジナ、シマイサキ、アミメハギ、クサフグ



「ガッチョ」のひとつ、トビヌメリ

(山田浩二)

## 第5 プールのヤゴ調べ

日時：2004年6月5日 10:00～12:00

場所：貝塚市営第5プール

プール開き前の掃除のために水が抜かれてしまわないうちにヤゴを救出しようと、今年も第5プールにおいて行事を行いました。一般の参加者88名は50mの大人用プールで、チャレンジ冒険クラブの12名は幼児用プールで、それぞれ30分、ヤゴの採集を行いました。

大人用プールでは、シオカラトンボ、タイリクアカネ、コノシメトンボ、ウスバキトンボ、幼児用プールでは、タイリクアカネ、ア

キアカネ、コノシメトンボ、ウスバキトンボが採集されました(詳しいデータは付表に示しました)。昨年の行事で採集されたギンヤンマとショウジョウトンボは、今年は採集されませんでした。

一般の参加者にも同定(種類の判別)の方法を学んでもらうのも行事の目的の一つですが、アカネ類のなかまには同定が難しいものが含まれます。タイリクアカネと思われるものの中に、下唇の斑点が、はっきり見えるもの、薄いもの、どう見ても見えないものが混じっているようで、遊学館スタッフの方も勉強をやり直す必要を感じました。

幼児用プールで採集したヤゴは全個体を遊学館に持ち帰り、腹部の背棘の特徴などを見比べ、「タイリクアカネでもコノシメトンボでもないもの」を選び出し、成虫に羽化させて種類を調べたところ、アキアカネであることが分かりました。アキアカネの幼虫をタイリクアカネの幼虫から区別する点は、腹部第4背棘がはっきりしていることだと、今回の少ない飼育例から分かったつもりになっていますが、この形質にも例外があるかもしれません。

なお、第2プールは東小学校、第3プールは葛城小学校あゆみの丘、第4プールは南小学校の生徒に、採集を手伝ってもらい、第1プールは遊学館スタッフで調査を行いました(付表)。

(岩崎 拓)

貝塚市内の市営プールのヤゴ調査 (2004年)  
特に記述のない数値は幼虫、死体、羽化殻の個体数を示す。2004年6月20日貝塚市立自然遊学館作成。

場所		第1プール		第2プール	第3プール	第4プール		第5プール			
		大人用	幼児用	大人用	幼児用	大人用	幼児用	大人用	幼児用		
日付		6月2日		6月2日	5月31日	6月3日		6月5日			
調査者		自然遊学館		東小学校	葛城小学校	南小学校		自然遊学館 行事	チャレンジ 冒険クラブ		
人数		2	1	106	12	51	109	88	12		
時間(分)		30	10	30	30	30	30	30	30		
トンボ目	トンボ科	シオカラトンボ	幼虫	4			1	1	5		
		タイリクアカネ	幼虫						253*	310	
		アキアカネ	幼虫							4	
		コノシメトンボ	幼虫	128	1	665	1549			633	170
		ウスバキトンボ	幼虫	25	17	20		99	1517	11	3
		死骸**				172			3	77	41
		羽化殻**				69			13	184	119
カゲロウ目	カゲロウ科	タマリバタバカゲロウ	幼虫	○			○		○		
カメムシ目	コオイムシ科	コオイムシ	成虫				○				
	マツモムシ科	マツモムシ	幼虫・成虫	○		○	○				
	ミズムシ科	コミスシ	成虫	○		○	○	○	○		
		コミスシ属の一種	幼虫				○				
	アメンボ科	アメンボ	成虫	○							
		ヒメアメンボ	成虫	○		○					
アメンボ科の一種		幼虫	○		○	○					
ハエ目	ユスリカ科	ユスリカ科の一種		○	○	○	○	○			
コウチュウ目	ゲンゴロウ科	チャイロマメゲンゴロウ						*			

第2プール(大人用):東小学校4年1、2、3組; 第3プール(幼児用):葛城小学校あゆみの丘11名+遊学館1名  
第4プール(幼児用・大人用):南小学校有志; 第5プール(大人用):自然遊学館行事参加者; 第5プール(幼児用):チャレンジ冒険クラブ12名  
第5プール(大人用)では、6月4日に見下見を行い、タイリクアカネ幼虫2個体、チャイロマメゲンゴロウ成虫1個体を採集した。  
タイリクアカネ幼虫の個体数は、その2個体を含んでいない。  
第5プール(幼児用)の採集物は、全個体を自然遊学館に持ち帰り、タイリクアカネ、アキアカネ、コノシメトンボの一部を羽化させて、種名を確認した。

## ヒラメの稚魚放流

日時: 2004年6月12日(土)

場所: 二色浜帆船マスト前

毎年恒例の行事で、今年も親子連れを中心に98名の参加者がありました。大阪府水産試験場の睦谷一馬さんのご協力で、卵から育てられたヒラメの稚魚約千匹を運んで頂きました。稚魚放流に先立ち、睦谷さんより大

阪湾のお魚についてのお話を聞きました。

そして、各自持参したバケツにヒラメの稚魚を入れてもらい、波打ち際まで運び、海へと放流しました。ヒラメたちは初めての自然の海に戸惑っているかのようで、しばらくその場でじっとした後、徐々に沖へ向かって泳いでいきました。ヒラメをはじめ、たくさんの魚介類が住む大阪湾にとの願いを込めて、参加者はその様子を見送りました。



二色浜でのヒラメ稚魚放流

(山田 浩二)

## 【泉州生きもの歳時記】

### ① ナガサキアゲハ

自然遊学館 10 周年記念号で貝塚市の蝶の項を担当したのをきっかけに 2000 年代の貝塚の蝶の記録をしておかねばと思い立った。所蔵リストの記録を基に、採集カレンダーを作り、本年は特に記録の少ない種に焦点をあてて蕎原・柮谷・馬場・千石荘を中心に調査する事とし、①4 月末～5 月初め、②5 月末～6 月中、③7 月、④9 月、それぞれの 10 時～13 時、16 時～を一応の目安とした。

①は 1994 年 5 月 7 日に採集されているナガサキアゲハの確認である。

4 月 14 日快晴、11 時 30 分頃水間公園ナミアゲハ多く、ヒラドツツジの花は満開近し。黒いアゲハの姿が見えないので少し時期的に早いのかと判断し蕎原へ向かう。サカハチチョウ 2 匹目撃、川筋のウツギの花芽あたりを飛び交うトラフシジミ 3 匹確認、1 匹捕獲。

4 月 24 日晴れ、ヒラドツツジは満開、モチツツジも満開で先ずモチツツジの株の前で 1 時 30 分～50 分待機、展望台への小道両側のヒラドツツジの間を黒いアゲハが早く飛んでいる。場所を展望台への小道沿いのヒラドツツジから 5m ほど離れた孤立した 2 株の満開の赤の花のヒラドツツジの前へ移動する。14 時 10 分頃花を訪れた♀を捕獲。



植えられており、新しい葉が展開中である。また中規模のウンシュウミカンの圃場もある。民家に植えられたミカン類が発生源ではなかろうか。

(保田 淑郎)

### ② アカネズミ

「ネズミ」と言うと、不潔、増える、家を痛める、などといったマイナスのイメージを持たれることが多いようです。ですが、日本

に生息するネズミの仲間のうち、家屋に住みつく「家ネズミ」はほんのわずか（ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミ）。残りの種類はほとんどが畑や草地、山林など、人間の生活圏からは少し離れた所にすむ「野ネズミ」です。

アカネズミは体が大きく、力も強いので沖縄を除いたほぼ日本中に分布する野ネズミの代表的な種類です。貝塚での捕獲調査では、蕎原箱谷、名越の千石荘病院跡地など、藪や林の残る環境に普通に生息しています。



**大きな目が特徴**

特徴はなんといっても明るい赤茶色の体色と、少し飛び出したような感じさえする大きな黒い目です。あまりにも大きいので、走ったり、土の中のトンネルをくぐったりするとき傷ついたりしないのかな？と少し心配になりますが、野外で観察している限りでは、目をけがしたアカネズミにはあまり会ったことはありません。また、一匹ずつ顔や体の感じ(細面、寄り目、離れ目、耳切れ、毛色の明るさ...)が違うので、よく観察すれば個体を見分けることも可能です。

歯はとても丈夫で、堅いクルミやツバキ、ドングリの殻などをかじることができます。

冬眠はせず、冬は地下茎や越冬昆虫を食べたり、秋の間にたくわえておいた木の実を食べます。

埋められた木の実のいくつかは食べ忘れられて発芽するため、木は野ネズミにうれしい食べ物を提供するかわりに自分の種子を運んでもらうという関係ができています。

そういえば一昨年、ある博物館に化石になったクルミの展示があり、そこに特徴的なアカネズミの食べ跡(=食痕)を見つけ、とても嬉しくなりました。ネズミと木の実の契約は大昔から続いているようです。

アカネズミはヘビ、キツネやイタチ、タカやフクロウなど猛禽の大切なえさにもなります。フクロウの巣の下に行くと、未消化の食べかす(ペリットと呼ばれます)が落ちていますが、その中にはネズミの骨がよく見られます。



(西澤 真樹子)

## ◆投稿◆

## わたしのカブトムシ日記

私は去年の夏自然遊学館の行事「千石荘の昆虫採集」にお父さんと参加しました。そのときオスのカブトムシを1匹つかまえました。

木の根元の土を掘ってみたら、黒いつのが見えたのでお父さんと一緒にもっとたくさん掘りました。カブトムシが出てきた時はすごくびっくりしたけどうれしかったです。

家に持ってかえって、最初は1匹で飼っていましたが、しばらくしてお父さんがお店でメスのカブトムシを買ってくれました。カブトムシは2匹になってうれしそうでした。



カブトムシたち

私は霧吹きで水をかけたり昆虫ゼリーを入れてあげたりしてお世話をしました。幼稚園の夏休みが終わるぐらいになった時、カブトムシはあんまり動かなくなりました。私は病気になったのかなあ、と心配しましたがそ

れからすぐ、朝起きてみて見ると2匹とも動かなくなっていました。私はすごく悲しくなりましたが、お父さんが「もしかしたら卵を産んでくれているかもしれないから、この土はこのままにしておこうね」と言いました。私は2匹をお庭にうめてあげました。

それからだいぶたってから私は遊んでいた時、カブトムシがいたケースを見てみました。すると何かが動いていたので、お父さんと呼びました。ケースの土を広げると、私の親指くらいの大きさの幼虫がたくさんいました。全部で15匹でした。新しい土をたくさん入れて、大きいケースに移しました。私は昆虫ゼリーをあげようとしたのですが、お父さんに「幼虫は土や朽ち木しか食べないから、ゼリーいらないよ」と言われました。何か月かに1度、土を入れ替える時に幼虫を見ました。幼虫はどんどん大きくなりました。今年の5月になってから、お父さんが幼虫を1匹ずつ小さいケースに分けようとしたのですが、もう幼虫は穴を掘ってさなぎになる用意をしていたのでそのままにしておきました。



全部で15匹も育った！

5月の末頃から、さなぎがカブトムシになりました。毎日2,3匹ずつ大人になっていきました。全部がカブトムシになりました。オスが11匹、メスが4匹でした。一番大きいオスは8cmです。オスはとても良く動いて、土の上に出ていることが多いです。メスはいつもじっとして、いつも土の中に隠れています。

オスは時々ケースから逃げ出して勝手に部屋の中を散歩することがあります。この前部屋の中を飛び回ってとてもびっくりしました。人間が歩く時みたいに縦に立ったまま飛んでいました。ブーンと羽の音がすごかったです。カブトムシは体が大きいのに飛べるなんてすごいなあ。

今年ももうすぐ千石荘の昆虫探しにいきます。またカブトムシを見つけたいです。今年もカブトムシを育てていっぱい卵を生んでほしいと思います。私はもうカブトムシを自分で持てます。とてもかわいくて好きです。  
(注:娘の話したことを文章にしました。母)

(永寿小学校1年 日高 向日葵)

### ◆寄贈標本の紹介◆

#### 高野晴一郎君が採集したキマダラカメムシ

2004年4月21日、貝塚市二色1丁目において、二色小学校3年生の高野晴一郎君が、キマダラカメムシ *Erthesina fullo*

(Thunberg)のメス成虫の死体を採集しました(図1)。



図1. 貝塚市二色で採集されたキマダラカメムシ(体長21mm)

当日午後2時頃、小学校からの帰り、合同宿舎5棟の南側の歩道で、仰向けになって死んでいたそうです。このカメムシは「日本原色カメムシ図鑑」(全国農村教育協会)によると、九州、沖縄本島、石垣島、台湾、中国、東洋区に分布すると書いてあり、大阪は本来の分布地ではありません。ただ最近では、山口県や広島県で採集例があるようです。カメムシの生態に詳しい桂孝次郎さんの話では、「本来の分布地から飛んで来たとは考えにくい」ということでした。複数の遊学館関係者の推測をまとめると、今年の3月下旬から貝塚市と宮崎県を結ぶフェリーが就航し、その客船に乗って運ばれてきたのではないかという話になりましたが、この推測が正しい確率はいかほどのものでしょうか。

(岩崎 拓)

## ◆寄贈図書の紹介◆

### ■植物学雑誌『プランタ』ほか約 50 点

清水千尋氏より

### ■昆虫学雑誌『インセクタリウム』ほか

約 100 点

ほかにも、双眼鏡・文房具など寄贈いただきました。

近鉄あやめ池遊園地・池ものがたりの國

(旧自然博物館) 元学芸員 河合正人氏より

## ★自然遊学館スタッフの日誌より★

自然遊学館で起きたいろいろな出来事を  
トピックスでお伝えします。

4 月 24 日 保田淑郎顧問がナガサキアゲハのメス成虫を水間で採集 (6 ページ)。その後、5 月 3 日に職員の橋本夏次さんが感田神社で、同種のメス成虫を採集。保田顧問は狙いどおりに採集。橋本さんは感田神社の境内で「不意打ち」を食らい手づかみで採集したとのこと。前々号で紹介した西村恒一氏から寄贈していただいた同種のオス成虫が当館の最初の標本だったのですが、今年はすでに 2 個体の標本が得られました。(岩崎)

6 月 3 日 遊学館の建物に毎年、ツバメが巣を作っています。今年も雛を育てていたのですが、スズメがしつこくツバメの巣をのっころうとして雛を落としていました。この日、二羽の雛を巣から落とされ、はしごを使って巣の中に雛を戻しました。

大阪自然史博物館の和田岳学芸員に対策

を聞いたところ、なかなかこの問題は難しいらしく、カップ麺のいれものにいれて、人の目立つところに巣を移し変えては？とアドバイスをもらいました。しかし、遊学館のツバメの巣は目立つところにあり、対策ができぬまま雛は巣立つことが出来ませんでした。残念です。(宮本 久美子)

6 月 25 日 東小学校の 6 年生 2 名が職場体験を行いました。朝から夕方まで、展示植物の入れ替えや水槽の水替え、カエルの餌採集などなど元気一杯に頑張ってくれました。この日は東小学校 3 年生の団体見学もあり、ちょっぴりお兄ちゃん気取りで解説の手伝いもしてくれました。(山田)

## ◆お知らせ◆

新パンフレット、もうすぐ完成！



新しいパンフレット

自然遊学館ではただいま、新しい案内パンフレットを作成中。貝塚で見られる様々な生きものたちが、表紙や展示案内のコーナーに

ちりばめられています。さて、何種類登場しているのでしょうか??数えてみてください。新パンフレットは◆月頃館に届く予定です。ぜひ、手にとってご覧ください。

(西澤)

## 夏期特別展

### 二色浜の生きものたち

期間：2004年7月24日～9月20日

場所：自然遊学館多目的室

二色浜では四季を通じ、さまざまな海洋生物の営みがあります。二色浜に足繁く通い、大阪湾の海をこよなく愛す新野大さん(海遊館)の撮影された写真で二色浜に生息している海辺の生きものたちを紹介します。

### 普及講演会「新野大氏の夕暮れトーク」

8月7日午後5時から自然遊学館多目的室にて開催します。(要予約)

### 山手地区公民館で「昆虫の食性展」

2004年7月27日から8月29日まで山手地区公民館と協働開催で「昆虫の食性展」を行います。今年の1～2月に当館で、4～5月に関空交流館で行ったものを再び開催するものですが、新たな画像も準備しましたので、ぜひ山手地区公民館へ足をお運びください。

自然遊学館だより 2004 夏号 (No.32)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 0724(31)8457

Fax. 0724(31)8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.osaka.jp

<http://www.city.kaizuka.osaka.jp/shizen/index.htm>

発行日 2004.7.1

## お詫び

自然遊学館だよりのホームページへの掲載作業の途中で、元のファイルが紛失し、新たに編集し直しました。一部の記事で、発行した冊子と内容の変更(主に画像の削除)があることをお詫び致します。

2010年1月15日